

横浜市小学校社会科研究会

3学年部会

# 研修会記録

第 1 号

令和5年 7月 5日

横浜市小学校教育研究会

会長 濱田 哲也

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 権正 倫範

【提案日時】

6月 7日 (水)

提案 小池 智宏 先生 (鴨志田第一小)

【会 場】

横浜市立 平沼小学校

司会 権正 倫範 先生 (牛久保小)

記録 三浦 智 先生 (高舟台小)

1 提案内容 単元名

単元名「わたしたちのまちと市 ～鴨志田のまちから横浜市へ～」

2 提案者より

○研究会主題について

視点①子どもたちのみとりから単元をつくる手立て

視点②協働的に学びを深めるための手立て

○今日の研修会のポイント

- ・抽出時を中心にみとるということがどういうことか。
- ・単元を見通す学習問題と本気の学習問題の共通理解。

①—1 一人ひとりが問いをもてるような社会的事象との出会いを大切にする。

- ・学校周辺の住宅地と臨海部の工場が並ぶ写真を比較する。

→特徴の異なる写真を2つ掲示し、比較することで、問いをもつことができるのではないか。

→わたしたちの横浜市はどのような様子なのだろう という単元を見通す学習問題の設定。

単元を見通す学習問題・・・子どもたちが2、3時間先のことまで見通しをもつことで主体性をもって学習に取り組むために設定する。

①—2 一人ひとりをしっかりみとり、それぞれの問いを生かした単元をつくる。

- ・まち調査の視点を生かして疑問を整理する

土地の使われ方／土地の高さ／みんなで使う場所／古くからあるもの／交通

**課題** 子どもたちの考えや思いに応じて学習計画の修正を行っていただけるとよかった。

② 子どもの思考に沿いながら、協働的に学びを深めるための手立てを大切にする。

- ・地形と土地利用の関連付け、地域の比較が難しい→片方を50%透過させて重ねる
- ・問い返し、意図的指名、板書で比べる

**課題** 市の学習における社会的事象の意味へ迫る本気の学習問題の設定が難しかった。

本気の学習問題・・・社会的事象の意味について考えを深めるために学習問題。

子どもが追究したいと思い、主体的で深い学びにするために設定する。

～なのに、どうして～なのだろう

## 2 協議会

○子どもたちの予想や疑問を生かす

- ・市のことをほとんど把握していない3年生に予想を考えさせることがまず難しい。  
→まち調査での視点や疑問を予想に生かしていくことが望ましいのではないか。  
→指導要領において、「大まかに捉える」とある。細かく関連付けなくてもよいのではないか。  
→イメージをもたせるために地図や写真を比べたりしながら見せているのがよかった。  
⇔写真から読みとるのも難しい。立体や面の地図などの使い分けの仕方を考えていかないとけないと感じた。
- ・社会科における予想と疑問とは何かを理解させたり、「わからない」を解決していくという学び方を身に付けていったりすることも大切だと感じた。  
→どうやって解決していくのか、「様々な地図を読み取り、比べていく」「市役所の人に聞く」も経験がないとわからない。

○協働的に学ぶ

- ・2つの地図を重ねる方法があることを知って、おもしろいと思った。子どもたちも「関連付ける」の意味が理解しやすかったのではないか。
- ・問い返し、意図的指名をしながら、比べたり、つなげたりすることが協働的な学びにつながっていくのではないか。

<講師の先生より> 日枝小学校 加藤智敏校長先生 宮谷小学校 鳥山真校長先生

立体地図などで高低差から考えたり、土地利用から考えたりしていくと思う。そして、結局は人に着目してくことになり、交通などを関連させていくことになるのだが、「このまちってどんなまちだろう」ということを捉えるのが難しい。まちと市を同じ視点で考え、特徴的なところを取り上げていくとよい。人に注目して、駅に人が多いなどつなげて見る視点を1つもっておくとよい。

協働的に学ぶことで、「相手と違うな」と思ったり、「なぜだろう」のやりとりが生まれたりする。その中で子どもの主体性や深い学びに繋がっていく。そして、さらなる問いが生まれ連続的に学習していくことになる。

立ち止まる場面が必要。まちの様子をどこを比べたらよいのか、他とどう違うだろうと考えていくためには、特徴的なところをあげて考えるとよい。全体を見ていってしまうと考えがぼんやりとして見方や考え方を働かせづらい。

3年生の初めて、関連付けは難しい。比較するくらいが適当ではないか。何に着目するか、どこを比べるか、汎用性を意識しながら比べられるようにしていきたい。

抽出児を出す限り徹底して取り組めるとその自動、集団の育ちにつながる。「なぜその子を取り上げたのか。」「どんな育ちを期待しているのか。」「集団がどう変わったのか。」と意識していきたい。

「どんな市か？」と聞いて「いろんなところがある」より一歩進めたい。イメージでは、「港がある」、「人が多く住んでいる。」などがあるが、そのまちがどういう成り立ちなのかということや、子どもたちはどんなイメージをもつのかということを見とらないといけない。

